

# 台風第9号に対する農作物等管理技術対策について

平成28年8月22日  
埼玉県農林部

熊谷地方气象台によると、強い台風第9号は、22日昼前から昼過ぎにかけて東日本に上陸し、22日昼過ぎから夕方にかけて埼玉県に最も接近する見込みです。

台風通過後の対策として、以下の対策を参考としてください。  
なお、今後も最新の気象情報に留意してください。

## 共通事項

- 1 台風通過後は、病虫害の発生を防ぐため、薬剤防除を行う。

## 水 稲

- 1 冠水したほ場では、速やかに排水する。ただし、台風通過後に高温・強風が懸念される場合は、天候が安定するまで深めの湛水状態を保つ。
- 2 収穫期に到達したほ場で倒伏した場合、なるべく速やかに収穫する。  
収穫期に至る前に倒伏した場合、速やかに排水しほ場の乾燥を早める。  
また、倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。
- 3 台風通過後は、穂枯性病害（もみ枯細菌病、内穎褐変病等）や白葉枯病防除のため薬剤散布を行う。

## 大 豆

- 1 浸冠水したほ場では、滞水による根腐れを防ぐため、速やかに排水する。

## 野 菜

### ◎露地なす

- 1 停滞水による湿害や病害（青枯病、半身萎凋病、褐色腐敗病等）の発生を防ぐため、速やかな排水に努めるとともに薬剤防除を行う。
- 2 風雨により被害を受けた果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

### ◎いちご

- 1 降雨により炭そ病の発生が懸念されるので、速やかに薬剤防除を行う。
- 2 本ほに浸水した場合は、排水ポンプ等により強制的にほ場外に排水し、適期に定植できるよう準備を進める。

### ◎ねぎ

- 1 ほ場作業が可能になり次第、軟腐病・白絹病・小菌核腐敗病等を対象に薬剤

防除を行う。

- 2 収穫期に達しているほ場では、高温多湿による軟腐病の被害拡大が懸念されるので、ほ場作業が可能になり次第、速やかに収穫・出荷を行う。

#### ◎やまといも

- 1 葉渋病や炭疽病の発生を防ぐために、速やかに薬剤防除を行う。

#### ◎えだまめ

- 1 白絹病の発生が予想される場合は、薬剤防除を行う。

#### ◎ブロッコリー、キャベツ

- 1 風雨により軟腐病、べと病、黒腐病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。
- 2 天候が回復次第、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 3 土壌が流亡した場合は、株を直し、株元に軽く土寄せを行って倒伏やねじれを防ぐ。

#### ◎にんじん

- 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

#### ◎こまつな等葉菜類

- 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

### 果 樹

- 1 落下した果実は速やかにほ場外へ搬出する。
- 2 葉・枝・果実の損傷が発生した場合は、なしでは輪紋病、ぶどうではべと病や晩腐病、いちじくでは疫病、りんごでは腐らん病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

### 花植木

- 1 倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。
- 2 破損した茎葉は病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する。
- 3 浸冠水した施設、資材等は必要に応じ消毒を行う。
- 4 キク・宿根アスター等の栽培に係る電照・補光関連施設（電球、タイマー等）については、速やかに作動状況の点検を行う

### 茶

- 1 強風などにより枝葉の損傷が生じた場合、炭疽病が発生しやすくなるので、炭疽病に弱い「さやまかおり」や炭疽病が常発するほ場を中心に薬剤防除を行う。

### 飼料作物

- 1 飼料用トウモロコシが倒伏した場合、収穫適期である黄熟期まで20日以上前(乳熟期より前)であれば先端の起きあがりを待ってから収穫・貯蔵を行う。
- 2 土砂の混入はサイレージ発酵の品質低下を招くので、収穫時には混入しないよう刈高を調整する。

◎農薬は最終有効年月までに、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、使用してください。農薬の最新情報については、農産物安全課のホームページでご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutourokuhenkou.html>